

児童の興味・関心を大切にし、
自ら積極的にコミュニケーションを図る姿を引き出す指導過程の工夫・改善

本校の英語活動の取組の紹介

学校名	大垣市立中川小学校
実施状況(学年・回数)	第1・2学年：「ゆとりの時間」を使い，週1回45分間の英語活動を実施 第3～6学年：大垣市「わくわく英語特区」を受け，週1回45分間の教科英語を実施 毎週2回ずつ朝の活動時間に15分間（全校テレビ放送）で実施
年間時数	全学年 年間35時間の実施
指導体制	毎時間，HRT，ALT，VETによる3人でのTT指導 (HRT=学級担任 ALT=外国人指導助手 VET=地域ボランティア講師)
その他	文部省指定「研究開発学校」(H.9～H.11) 文科省指定「英語教育改善のための調査研究事業」調査研究学校(H21～)

1 前年度までの実践について

- ・無理なく英語に慣れ親しませるために，児童の実態に合わせて単元指導計画の見直しを図った。
(ねらいや評価規準，必然性のある英語活動，モデルスキットや主に使う英語表現)
- ・自分や仲間の伸びが実感でき，共に学びあうよさを味わうことのできる評価のあり方を工夫した。
(振り返りの場の設定や方法，振り返りカードの工夫，学び合いの場の設定)
- ・実態把握に基づき，3人の指導者(HRT，ALT，VET)の分担を明確にして，個に応じた指導・援助の工夫をした。

2 英語活動を通して目指す姿

(1) 英語活動を通して願う児童の姿

- ・仲間とかかわり合って学びを深めたり，ともに学び合うよさを実感したりできる姿
- ・確かめながら聞いたり，既習の英語表現やジェスチャーを臨機応変に使いながら話したりする姿
- ・英語の発音と文字との関係に興味を示し，それに気付くことのできる姿

(2) 第5学年までの児童の姿

- ・仲間とかかわりながら学びを深め，仲間とともに学びあうよさを実感する児童が増えてきた。
- ・既習の英語表現やジェスチャーを使って，分かりやすく伝えようとする児童が多いが，相手に合わせて話す力は，十分についていない。
- ・少々分からないことがあっても，類推しながら聞こうとするが，相手の考えや思いを理解するために，確かめながら聞く力は，十分についていない。

3 本年度の重点実践内容

確かな実態把握に基づき，児童の興味・関心，教科や他領域との関連を大切に単元指導計画の見直しや主に使う英語表現の精選
目指す姿を具体化し，児童にとって学ぶ必然性や楽しさを感じられ，コミュニケーション能力を高めることのできる指導過程の工夫
自分や仲間の伸びが実感でき，共に学び合うよさを味わうことのできる評価の工夫

4 具体的な実践

(1) 指導計画

実施学年	6年	指導時期	10月下旬
題材名	修学旅行で国際交流		
指導目標	修学旅行で外国人観光客に話しかけ、名前や出身国などを訪ねる活動を通して、インタビュー表現に慣れ親しみ、礼儀正しく英語で楽しくコミュニケーションしようとする態度を育てる。(全5時間)		
主に扱う語彙や表現	Excuse me. / Do you have a minute? / What's your name? / Where are you from? / Where did you visit? / How was it? / Let's take a picture. / Sign here, please.		
教材・教具	・歌のCD ・活動カードとシール ・評価カード		

評価の観点	評価規準(実現したい具体的な姿)
言語や文化についての気付きや体験的な理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの国の学校行事のことや、ALTから見た日本の史跡を中心にした文化の印象を知り、日本の文化のよさについてあらためて認識する。 ・知らない人に話しかける時やインタビューをする時に配慮することに気付き、それを生かそうとする。
英語による積極的なコミュニケーションの態度	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の英語表現を使って相手のことを知ろうとする。 ・相手のことを正しく理解するために、注意深く聞き取ろうとしたり、相手に質問をして確かめたりして、インタビューしようとする。 ・相手に分かりやすくジェスチャーを用いながら話そうとする。
音声や基本的な表現への慣れ親しみ	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の英語表現や新しい英語表現を使って本単元で使う英語表現に慣れ親しんでいる。 ・ALTの後についてリピートしたり、チャンツでリズムに乗って楽しく繰り返したりしている。

単元指導計画

時間	目指す姿	主な活動内容	主に扱う語彙や表現	言語と文化 コミュニケーションの態度 音声や基本的な表現への慣れ親しみ
1	“Excuse me” “Do you have a minute?”を用い、ていねいな言い方で声をかけたり、相手の名前をたずねたりする活動を通して、相手の目を見て笑顔で話しかけようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・見知らぬ人に話しかけたり、時間があるかを尋ねたりする表現をチャンツで行う。 ・ピンゴ形式で、ゲームをして楽しむ 	Excuse me. Do you have a minute? (趣旨説明文を見せる) Yes.(OK.) My name is ~. What's your name? My name is . ? OK. Thank you. Have a nice day. Thank you. Good-bye.	見知らぬ人に話しかけるときには、“Excuse me. Do you have a minute?”を使うと、ていねいで良いことを知る。 見知らぬ人に話しかける言い方を理解し、ALTの後について積極的にリピートして慣れ親しむ。



2	“Where are you from?” “Where did you visit?”を用い、出身国や訪問した場所をたずねる活動を通して、問い返したり、確認したりしながら聞こうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・出身国を尋ねたり答えたりする表現と訪問した場所をたずねる表現をチャンツで行う。 ・インタビュー形式でいねいに話しかけ、出身国などを聞いたりして楽しむ。 	<p>Where are you from? I'm from <u>China</u> / Korea / France/ Australia / Canada / America / Germany / Italy / Brazil. etc.</p> <p>Where did you visit? Kinkaku temple / Ginkaku temple/Nijo-castle/ Kiyomizu temple, etc.</p>	ALT のトピックを通して、学生時代の学校行事的な旅行について知り、日本との違いを知る。たくさんの相手に丁寧な言い方で出身国や日本で訪れた場所を聞き、活動を楽しむ。
3	“How was it?”を用い、訪問した場所の感想をたずね、写真を撮ったり、サインをもらったりする願いを、相手の理解を確かめながら伝えようとする。(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先の感想を聞いて答えたり、写真を撮ってもらったり、サインをもらったりするときの表現をチャンツで行う。 ・サイン集めのゲーム活動をして楽しむ 	<p>How was it? Beautiful/Wonderful / Great/Historical /Nice</p> <p>Let's take a picture. Sign here, please.</p>	話しかけた時に相手の理解を得ることができなく困った時にとったコミュニケーションの仕方について知る。習った英語を使って、進んで相手に話しかけようとする。写真を撮ってもらったり、サインをもらったりする言い方にチャンツで慣れ親しむ。
4	プレゼントの内容を紹介する言い方に慣れ親しみ、分かりやすく伝えようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントの内容を紹介する言い方を、グループで考えて練習する。 ・グループ間で尋ねたり答えたりする。 	<p>This is Ukiyoe./ Origami.. It's beautiful./ wonderful/ great/ nice.</p>	ALT から、日本に滞在してからの旅行について、清水寺や法隆寺などを例にあげ、日本の文化のよさについて話してもらい、そのよさをあらためて知る。既習の英語表現を使い、プレゼントの内容がよく伝わるようにはっきりと話す。
5	プレゼントを渡すときの表現を加えて、インタビュー表現に慣れ親しみ、表情豊かに、進んでコミュニケーションを図ろうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントを渡すときの表現をチャンツで行う。 ・グループ単位で実際の修学旅行を想定して、インタビューを楽しむ。 	<p>Please look! This is for you. This is a lucky card.</p>	ALT のトピックを通して、日本の有名な遺跡や史跡についての印象を話してもらい、日本のよさをあらためて知る。たくさんの外国人に積極的にインタビューをしようとする。

(2) 本時の授業について

初対面の外国の方に声をかけ、自己紹介をした後に相手にインタビューをし、さらにサインや写真のお願いをしていくという設定のもと、以下の点について工夫をする。

コミュニケーション能力を高める指導過程の工夫

課題設定の場では、ALT と VET が、前時までのスキットに加え、はっきりした声で表情豊かに、訪れた観光地の感想を聞いたりサインをもらって一緒に写真を撮ったりするスキットを見せる。そして、相手に自分の気持ちを伝えるためには、相手の理解を確かめながら会話を進めていく Adaptation が大切であることに気付かせ、学習内容に見通しが持てるようにする。

活動の場では、本時新たに加わった、訪れた観光地の感想を聞いたりサインや写真のお願いをしたりする表現に、チャンツやペアとのやり取りで慣れ親しみ、自信をもって話せるようにしていく。外国人役は、参観して下さる先生方をお願いをし、実際の場面のように受け答えをしていただく。時には、よく伝わらないふりをしたり臨機応変に児童に問い返してもらったりする。前半はペアでインタビューをしていくが、後半は一人ずつになって、それぞれにインタビューをしていき、できるだけ多くの相手とやり取りをすることで、実際行う修学旅行の場で児童が生き生きとコミュニケーションを図っていくことを望んでいる。

仲間と共に学び合うよさを味わう場の設定

アドバイスタイムで、相手の言ったことを確認しながら表情豊かにやり取りをしている児童の姿を紹介したり、前半の活動で、意図的にペアを組んだりして、仲間のよい姿を認め合い、互いに学び合える場を設定する。

3Tの支援については、ALTが Good speaker の面から英語表現や Application* を中心に、VETが、 Good listener の面から反応や答え方を中心に、HRTが、学び合いや学ぼうとする姿勢の面から、それぞれアドバイスをしたり評価の場で児童のよい姿を紹介したりする。

また、評価の場では、児童相互の評価を大切にし、本時の Important point**である Adaptation に関する仲間のよさを「Good job メッセージ」や「Thank you メッセージ」で発言させる。

Application*

- ・既習の英語表現を生かして、その場に応じた英語を使って対話を楽しむこと。

Important point**

- ・本時の授業で大切にしたい表現の仕方や態度について項目で示す。(例: Eye contact, Clear voice, Big gesture, Response 等)

(3) 授業の流れ (3 / 5)

評価 指導・援助 準備品 その他

過程	主な活動		評価・指導・援助
	児童	教師(HRT・ALT・VET)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ Let's say hello ・ Let's sing a song. ・ "Do you have a minute?" ・ Today's topic ・ Today's aim 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。 ・ 歌を歌う。 ・ 自分たちの修学旅行と重ねて ALT のトピックを聞く。 ・ 分からない表現をたずねる。 ・ スキット見て、活動の見通しをもち、本時のねらいを確認する。 ・ 新しい英語表現を知る。 ・ "How was it?" ・ "Let's take a picture." ・ "Please sign here." 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつをする。 ・ 児童とともに歌う。 ・ ALT は、学生時代の学校行事的な旅行について話をし、日本の学校行事の旅行と違うところに気付かせる。 ・ VET は、トピックに関するクイズを出題する。 ・ ALT と VET は、モデルスキットを演じる。 ・ HRT は、児童に、モデルスキットからどんなことを学ぶことができるか、注意を促す。 ・ 児童の発言から、本時のめあてと Important point を導く。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌の CD HRT は、トピックの言葉を繰り返して児童の理解を深める。 VET は、トピックにかかわるクイズを出題し、児童の理解を深める。 ジェスチャーを使ったり実物を指し示したりすることで、相手によく伝わるといことを、スキットで提示し、本時の Important point が Application であることを示す。 Application を示したカード。
	訪問した場所の感想を聞き、写真やサインのお願いを伝えよう。		

Student : Excuse me.
Do you have a minute?
Please look. OK?
(趣旨説明文を見せる)

Foreigner : Yes.

Student : Thank you.
My name is .
Nice to meet you.
May I have your name?

Foreigner : Nice to meet you, too.
My name is .

Student : Where are you from?

Foreigner : I'm from * * * .

Student : I see. Where did you visit in Kyoto?

Foreigner : Kinkaku temple.

Student : Oh, kinakakuji temple.
How was it ?

Foreigner : Great. (beautiful・……)

Student : I see. Let's take a picture. O.K?

Foreigner : O.K.

Student : Thank you.
Please, Sign here.

Foreigner : O.K.

Student : Thank you. Have a nice trip.

Foreigner : Thank you. Good-bye.

<ul style="list-style-type: none"> Let's chant. 	<ul style="list-style-type: none"> ALT と VET の後で新しい英語表現をリズムに合わせて繰り返し、慣れ親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT と VET は、本時の新しい英語表現を使った部分のスキットをリズムに乗ってリードする。 	<p>ALT と VET は、ジェスチャーをつけたり実物を示したりしながらチャンツをリードする。 HRT は、一緒にチャンツを行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> Let's try. (前半) 	<ul style="list-style-type: none"> ペアで活動し、外国人役の先生方にインタビューをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT は、質問がはっきりと言えない児童に対して模範を示したり、ヒントを与えたりして、対話ができるよう支援する。 	<p>各自のゲーム用カード 活動カード</p>
(Advice time)	<ul style="list-style-type: none"> 仲間の良い姿を見て、後半の活動に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> VET は、相手の児童の話している内容が分からないまま進めてしまっている様子の児童につき、聞き返す言い方の例を示し、対話ができるよう支援する。 	<p>アドバイスタイムでは、既習表現や適切なジェスチャーを使って、表情豊かに活動している児童を認め、広げる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> Let's try. (後半) 	<ul style="list-style-type: none"> 個人でインタビューをする。 	<ul style="list-style-type: none"> HRT は、学級経営の面から、前時までと比較し、より豊かに対話ができるようになってきた児童をとりあげて認める。また、よいアドバイスや仲間に学ぶ姿勢が強く感じられた児童を紹介する。 	<p>既習の英語表現を生かして、その場に 応じた英語を使うとともに、ジェスチャーを使ったり実物を指し示したりしながら、相手に自分の思いを分かりやすく伝えようとしている。 (Application)</p>
<ul style="list-style-type: none"> Today's treasure. 	<ul style="list-style-type: none"> 評価カードで自分の頑張りを振り返る。 Good job メッセージや Thank you メッセージで、仲間のがんばりやよさ、教えてもらってうれしかったことを伝える。 3 人の指導者からの評価を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> VET は、Good listener の面から、適切な反応の言葉が使えていた児童や適切なジェスチャーで表現していた児童の姿を具体例をあげながら認め、広める 	<p>振り返りカード</p>
<ul style="list-style-type: none"> Let's say good-bye. 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ALT は Good speaker の面から、既習の英語表現とジェスチャーを豊かに使って表現し、楽しく活動することができていた児童の姿を認め、広める。 	<p>歌のテープ</p>
<ul style="list-style-type: none"> Let's sing 			
<ul style="list-style-type: none"> Good-bye Song. 		<ul style="list-style-type: none"> 児童と一緒に歌い、あいさつする。 	

5 実践の検証と中学校の英語教育との連携や関連

(1) 実践の検証

本題材「修学旅行で国際交流」は、次の点において意欲的に仲間と共に学び合い、コミュニケーション能力を高めることができた。

学校行事と関連した単元を仕組むことで活動目的の明確化

実際に修学旅行で外国の人とコミュニケーションを図りたいという児童の願いに基づいて単元指導計画を作成した。新しい英語表現を精選し、既習の英語表現やジェスチャーをより多く使ってコミュニケーションを図ることに重点を置くことで、児童がより積極的に活動することができた。

既習表現を使って伝え合う必然性を設定

インタビューの前後には、あいさつや自己紹介、お礼の言葉など、既習の英語表現がたくさん含まれている。それらを使い、相手によく理解してもらうためには、ジェスチャーや具体物で示しながら、今まで学んできた Eye contact や Response, Good smileなどを生かすことが大切であることが分かり、実際に修学旅行で、初対面の外国の方と伝え合うことができたときの喜びを実感できるものであった。

仲間との助け合いや学び合いができる場と内容の設定

伝える内容が多いことや、初対面の人に話しかけることに対する不安から、声が小さくなったり表情が乏しくなったりする児童がいると思われたが、仲間との教え合いや仲間の姿から学ぶ場を設定することで、仲間と共に学び合うことのできる温かい人間関係を築き、修学旅行のときにも協力し合って活動する姿が多く見られた。

<児童の振り返りカードより>

わたしは、この単元をやり始めたとき、「これを修学旅行で使うのだな。」と、思いながら練習していました。初めて使う言葉や知らない言葉もあったけど、たくさん練習をして、修学旅行や英語の授業で生かすことができました。知らない言葉も言えるようになったのがうれしかったです。(児童 A)

この単元で、たくさんの先生方と話したり、班のみんなと分からないところを教えあったりして、すらすらと話すことができたのでよかったです。分からなかったところが分かったので、修学旅行が楽しみです。(児童 B)

<修学旅行後の児童の感想より>

外国の方との交流で、いつもの英語の授業では、先生や友達なので話しやすいけれど、見ず知らずの外国の方に話しかけるのは、勇気がいるし、緊張しました。でも、話しかけてみると、とてもやさしく接してくれて、うれしかったです。外国の方と話す機会があって本当によかったと思いました。(児童 C)

金閣寺で、初めて外国の方に声をかけました。すごく緊張して、話しかけるまでにすごく時間がかかりました。“Excuse me . Do you have a minute?” と、どきどきしながらみんなで声をかけました。話してみると、英語も通じて、名前や出身国などを教えてもらい、笑顔で交流ができてとても楽しかったです。(児童 D)

(2) 中学校の英語教育との連携や関連

文字の導入

毎時間、授業で使用する絵カードや写真に、文字で示してある名前を意図的に英語で示しておくことで、視覚的に文字に慣れ親しむことができるようにしている。本単元では、Kinkaku temple/Nijyo castle/China/America/などの文字を建物の写真や国旗に組み入れた。

また、単元ごとの英語表現に慣れ親しむために歌っている英語の歌は、歌詞が英語で表記されているが、読む指導は行わず、児童が徐々に文字にも触れていくことにもつながると考える。

自分の意思が伝えられる場面設定

児童の英語の授業に関する意識調査では、この3年間で楽しいと思う理由に変化が見られる。4年生のときには、「英語の歌やゲームをすることが楽しい」と答える児童が多かったが、今では、「英語で話をしたり聞いたりすることが楽しい」と答える児童の数の方が増えている。英語で話す必然のある場面設定をすることが、英語を学ぼうとする意欲や関心を高めることにつながっていると考えられる。

付けたい力の明確化

本校では、毎時間のねらいとともに、「コミュニケーションへの積極的な態度」「話すこと」「聞くこと」における付けたい力を“Important Point”として設定している。これらは豊かなコミュニケーションを図るためのモチベーションづくりにつながる重要なポイントであると考えられる。

6 資料

英語表現に慣れ親しむための替え歌

DO YOU HAVE A MINUTE? (茶色の小瓶の替え歌)

Do you have a minute?
What's your name?
Where are you from?
I'm from China.
Do you have a minute?
What's your name?
Where did you visit in Kyoto?
How was it?
Great. Nice. Beautiful.
Let's take a picture.
Please sign here.
This is a present for you.
This is a lucky card.
Thank you.
You are welcome.
Have a nice day.

児童の活動の様子



ALT から本時の新しい英語表現を聞く場面



3T から評価を聞く振り返りの場面

